2　これからの宇部市の姿

宇部市は、今後、どのような街として変貌していくのでしょうか。ここでは、現在あるいはこれからを見据えて、宇部市が取り組んでいることを中心に見てみましょう。

(1)　彫刻のあるまちづくり

宇部市を象徴するものの１つに「彫刻」があります。宇部市には、約360点の彫刻があります。そのうち、約半数は彫刻展の開催されるときわ公園に、残り半数が市街地に展示されています。都市の景観をよくしたり、生活する場所で芸術を鑑賞したりといった「うるおいのあるまちづくり」に加え、これまでおよそ50年におよぶ彫刻展の積み重ねによって、まち全体が野外彫刻の美術館となっているといえます。

宇部市では、戦後、まちの美化と心の潤いを目指す「緑化運動」「花いっぱい運動」が行われ、さらに、自然と人間との接点として、街に彫刻を置こうという「宇部を彫刻で飾る運動」が市民運動として広がりました。

こうした動きのなか、1961（昭和36）年には、大規模な彫刻展「宇部市野外彫刻展」が開催されました。以来、名称を変えながらも２年に１度のビエンナーレ方式により開催を続け、2011（平成23）年の第24回展で通算26回、50周年を迎えました。21世紀に入ってからは、国際展形式を取り入れ、海外作品も積極的に募集しています。

現在、ＵＢＥビエンナーレは、日本最大級の野外彫刻の国際コンクールとして展開しており、宇部市所蔵の野外彫刻作品は、国内屈指のコレクションとしてますます充実しています。

さらに、こうした宇部市の取組は、「彫刻のあるまちづくり」のモデルとなっています。現在、「パブリック・アート（広く市民に提供されている芸術）」として、野外彫刻がより広い範囲の人々の関心を引くようになり、都市の景観を作り出したり、文化への意識を高めたりするだけでなく、地域の産業や観光とも強く結びついています。

近年では、「ＵＢＥビエンナーレを名実ともに世界一に」を掲げ、ＵＢＥビエンナーレをより広く知ってもらうため、東京やスペイン・カステジョン市で紹介展の開催や世界一達成市民委員会委員の募集などが精力的に行われています。

さらに、今後、次のような取組も順次、企画・運営されます。

UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）

- **UBEビエンナーレの今後のあり方の検討**
- **UBEビエンナーレ入賞作家との企画イベントやワークショップの開催など連携強化**

「ＵＢＥビエンナーレ世界一達成市民委員会」が組織として充実し、市民総参加の総合アート化に向けたイベント等を独自に主体性を持って開催します。UBEビエンナーレ事務局は、コンペティションとしての現代日本彫刻展を充実・発展させます。

- **アーティスト イン レジデンスの実施など作家と市民の交流の場の創出**

UBEビエンナーレ実物制作指定作品の搬入について、作家の市内滞在を積極的に推奨し、設置の様子を入園者に鑑賞してもらうなど作家と市民のふれあいの場を創出します。また、アーティストトークや作家との交流会を開催し、作家と市民が身近にふれあえる機会を創出します。

彫刻教育の推進

- **小中学生を対象とした彫刻鑑賞プログラムの企画・実施など彫刻教育の推進**

ＵＢＥビエンナーレ応募作品展（模型展）及び本展（野外彫刻展）開催時には、市内の全小学校で鑑賞授業を実施するとともに、市教育委員会と連携し、小中学生を対象とした学年カリキュラムの内容に合わせた授業案を提案し、実施します。

調査・研究

- **UBEビエンナーレゆかりの彫刻家や作品に関するアーカイブ作成と公開**

柳原義達・向井良吉などの宇部市ゆかりの彫刻家や歴代のUBEビエンナーレ作品について、調査・研究を実施し、宇部市の文化の向上・発展に寄与します。

彫刻関連企画展

- **所蔵彫刻の展示など定期的な企画展の開催**

200点に及ぶ近現代の彫刻や野外彫刻のための模型作品、100点に及ぶ素描を中心とした平面作品など所蔵作品を活用したテーマ展示やUBEビエンナーレ出品作家による企画展を定期的に開催し、野外彫刻やUBEビエンナーレについての理解を含め、彫刻文化に親しむ場を創出します。

広報戦略

- **UBEビエンナーレや宇部の彫刻に関するビジターセンターの開設**
- **国内外に向けた情報発信の強化や紹介展の開催**
- **PRブース設置や広報媒体への相互掲載など他の芸術祭や文化施設等との連携強化**
- **歴代の大賞作品や年代別、素材別で作品が鑑賞できるなどホームページの充実**
- **東京オリンピック・パラリンピックを活用した観光プロモーションなどによる国内外の観光客誘致**

瀬戸内国際芸術祭との連携、山口情報芸術センター（YCAM）との連携に加え、他の芸術祭や文化施設等との間でPRブース設置や広報媒体への相互掲載、相互ワークショップの開催など連携を強化します。

UBEビエンナーレ及び宇部市における野外彫刻の歴史やコレクションを効果的に発信するため、ときわミュージアム第2企画展示室をUBEビエンナーレビジターセンターに改修し、アーカイブや図録の閲覧を常時容易にできるよう整備し、情報発信の拠点とします。

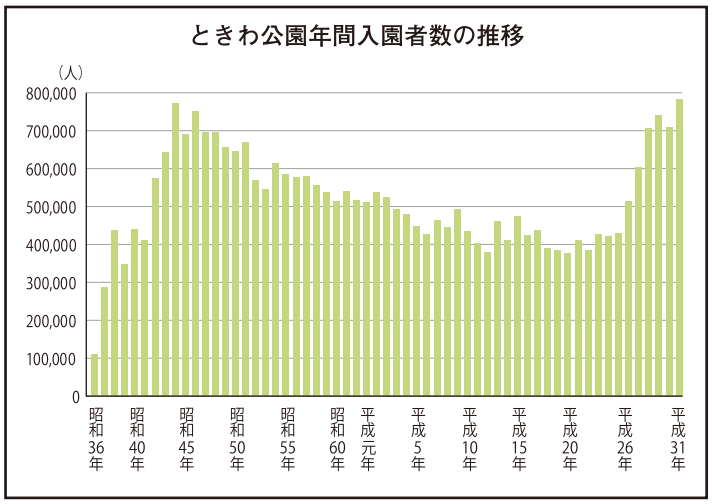
国内主要都市及び国外において、UBEビエンナーレ紹介展を開催し、UBEビエンナーレの歴史と魅力を全国的かつグローバルに発信します。

（2） 市民や観光客の憩いの場づくり

ときわ公園は、日本一の"自然体感テーマパーク"を目指し、市民の憩いの場のさらなる充実とともに、観光施設としても魅力のグレードアップを図っています。

1958（昭和33）年に常盤遊園地が開園して以来、憩いの場として、また宇部市の貴重な観光施設として多くの市民や観光客に利用されています。

年間入場者数は、1969（昭和44）年の約77万人をピークに減少しはじめ、平成に入ると50万人を下回るようになり、2008（平成20）年度には、37万人まで落ち込みました。その一方で、広大な公園と多様な施設を維持管理する経費は増加している状況でした。



年代	主なできごと
1698頃	常盤池の築堤
1957	オランダの動物園から白鳥20羽導入
1958	常盤遊園地の開園
1961	第1回宇部市野外彫刻展の開催
1962～64	宮大路動物園を常盤公園へ移設
1965	第1回現代日本彫刻展の開催 宇部常盤サボテンセンター開場
1966	ショウブ苑を造成
1967	インドからモモイロペリカン10羽導入
1969	石炭記念館完成
1991	ときわ湖水ホール完成
1992	白鳥大橋完成、常盤湖一周園路5.7km完成
1995	熱帯植物館完成
2001	ときわ公園入園料無料化
2010	TOKIWAファンタジアのイルミネーションコンテスト始まる
2011	高病原性鳥インフルエンザ拡大防止のため白鳥を殺処分
2012	ときわ公園動物園ゾーンリニューアル着手
2013	じゃぶじゃぶ池オープン
2014	花いっぱい運動記念ガーデン完成
2015	ときわ動物園「アジアの森林ゾーン」等先行オープン
2016	ときわ動物園グランドオープン 常盤池世界かんがい施設遺産登録
2017	「世界を旅する植物館」グランドオープン

そこで、公園の魅力づくりによる入園者の増加と持続可能な公園運営を図るため「環境・芸術・スポーツ・福祉」が融合した先進的なモデル公園を目指し、様々な取組を行いました。

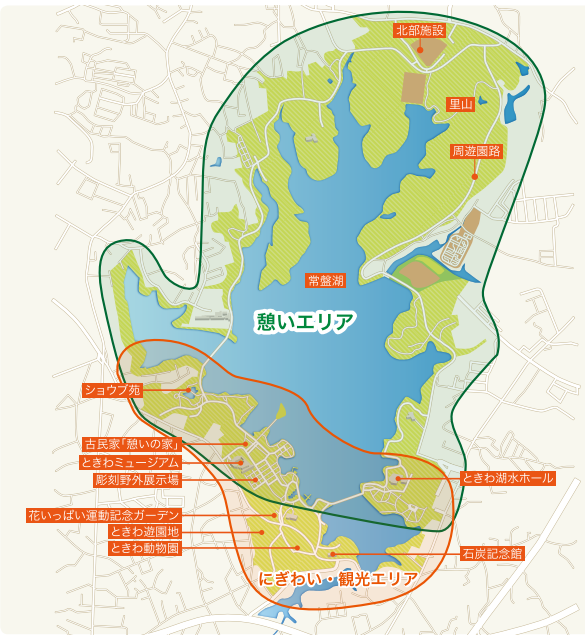
2010（平成22）年度に年末年始を彩るTOKIWAファンタジアのイルミネーションコンテストが始まり、2014（平成26）年度には「ときわ動物園」、2017（平成29）年度には「世界を旅する植物園」グランドオープンや、マルシェやフリーマーケットなど様々なイベントが開催、積極的なPR効果もあり、2019（令和元）年度には過去最多の78万3千人の年間入場者数を記録しました。

多様な資源にふれあい、体感することで、楽しみながら学べる総合公園

めざす方向

環　境	**自然環境の“学びの場”** 動物や植物などを通して、生命や自然環境について考える。
芸　術	**アートによるまちづくり“発祥の地”としての誇り** 歴史を知り、市民の誇りと愛着心を育てる。
スポーツ・健康	**“健康づくり”のフィールド** 豊かな自然と回遊性をもった憩いの場を創出する。
人・福祉	**人が集う“拠点づくり”** 人にやさしく、思いやりをもち、互いを支え合う仕組みをつくる。
アミューズメント	**誰もが楽しめる“公園づくり”** 市民や観光客、幅広い年齢層が楽しめる場を創出する。

＜観光拠点づくり＞
日本一の自然体感テーマパーク



（3） 暮らしやすい街として

宇部市は、工業都市のイメージが強いと思いますが、北部には豊かな自然に包まれた“うべの里”（中山間地域）が広がっている、中山間地域と都市部のバランスのとれたまちです。

○中山間地域とは

中山間地域とは、平野の外縁部から山間地を指します。山地の多い日本では、このような中山間地域が国土面積の約7割を占めています。

この中山間地域における農業は、全国の耕地面積の約4割、総農家数の約4割を占めるなど、我が国農業の中で重要な位置 を占めています。

「農林水産省ホームページ」から

宇部市は、「地域の暮らしやすさ指標」において、全国1741市区町村のなかで、第7位の評価を得ました。「地域の暮らしやすさ指標」とは、2015（平成27）年に経済産業省が生活コストをもとに作成したものです。

特に、30歳代の夫婦と乳幼児の世帯で、「生活利便性」「働きやすさ」「医療・福祉」の項目において総合的に高い評価を受けています。

具体的には、山口宇部空港が市街地の近くに位置し、東京と1日10往復、片道約90分で結ばれていることや、市内には185の医療機関（歯科を除く）があり、人口10万対医師数は449.8人（2012年）と全国平均（226.5人）を大きく上回っていることなどが魅力的な特徴として挙げられます。

宇部市では、こうした「住みやすさ」を積極的にPRし、多くの移住者を受け入れるため、次のようなサポートも掲げています。

○子育て世代UIJターン奨励助成金　○中山間地域移住者用住宅改修費用助成金
○乳幼児の医療機関受診にかかる医療費の自己負担無料